

「灼熱のバトル！」



第2戦のリベンジ！ 初優勝！！ #410

K耐久東海シリーズ2015は中間点となる第3戦を迎えた。台風11号の予報にやきもきしながら迎えたが、当日はもう梅雨明けとも思える(气象台発表は翌日)真夏の天気。灼熱のバトルを迎えた。

シリーズの流れを左右する折り返し地点を制するのはどこか！

「KNN」クラス(軽NAのノーマルクラス)

第2戦で初優勝をマークした#28「LIMITLINE トウディ」が、シリーズをリード。それを追いかけるのは開幕戦の勝者#100「HAC もらいものビート」。新規格の#10「FASTOUT アルト」も2戦連続3位と、頂点を狙う。今回も11台という過去最大級のエントリーを集めたこのクラス、ますます注目が高まっている。

■予選

予選トップは#28「LIMITLINE トウディ」1'09.709、今回ただ一台の10秒切り。2番手は#100「HAC もらいものビート」が1'10.372、3番手は#410「ACRS Today」1'10.387というトップ3。

4番手に#10「FASTOUT アルト」が1'11.256で新規格車のトップ、5番手#88「おんぼろ Today 錆」1'11.455、6番手#95「KHK アルト」1'11.819、7番手#5「PROJECT K アルト」1'12.370と続く。このあたりは第2戦よりタイムアップしており早くも接戦の予感。

以下8番手#33「Timely アルト IDI」1'13.223、9番手#6「ロッキーレーシング DXL アルト」1'13.281、10番手74「アルジェンタートアルト GT」1'14.207、最後尾は#28「ブラストヴィヴィオ」1'20.355。

■序盤

最初のステントは#100「HAC もらいものビート」が引っ張る。それを#10「FASTOUT アルト」、#33「Timely アルト IDI」が追う。まずは旧規格 VS 新規格の構図か。

一方予選上位の#410「ACRS Today」や#28「LIMITLINE トウディ」は義務ピット解禁後、早めにドライバーチェンジの作戦をとるようだ。

そんな中で、今回初参加の#88「おんぼろ Today 錆」はいきなりトラブルでピットに入ったまま、復活をかけて作業が進む。

■中盤

中盤のステントは今回も大混戦、#100「HAC もらいものビート」、#10「FASTOUT アルト」、そして#410「ACRS Today」が上位陣を形成。しかしながら#33「Timely アルト IDI」あたりもしっかりとついてくる。

ちなみに#28「LIMITLINE トウディ」は前戦優勝のため20kgのウェイトハンディが課される、このクラスにとっての20kgはかなり響くと思うが、クラス予選トップなど、いまのところそれを感じさせない走りだ。

中団では新規格アルトがバトル。マシン自体のポテンシャルが拮抗しているため見ごたえのある戦いが繰り広げられている。

残念なのは#88「おんぼろ Today 錆」と#5「PROJECT Kアルト」がそれぞれ10Lapと30Lapを走ったところでリタイヤとなってしまった。



1Lap 及ばずの2位！ #28



表彰台を手繰り寄せた #100



表彰台には手が届かなかったが
新規格最上位 #6

Race Report

■終盤

ゴールまで残り1時間の時点でトップを行くのは#100「HAC もらいものビート」で94Lap、2番手で#410「ACRS Today」93Lap、3番手#10「FASTOUT アルト」92Lapと新旧規格車が並ぶ、勝者はここからでるのか。

さらにそのすぐ後には#28「LIMITLINE トウディ」が91Lapでつけ逆転優勝に照準を合わせている。

さらにさらに90Lap前後では#33「Timely アルト IDI」、#6「ロッキーレーシング DXL アルト」、#95「KHK アルト」がチャンスを狙っており、どこが抜け出してもおかしくはない。まさに今季を象徴する混戦・接戦ぶり。

#28「ブラストヴィヴィオ」も83Lapと完走は間違いのないペースだ。



アルトバンはいまや主流になりつつある #33



レース中のタイムは新規格勢2番手 #95



ここは銀アルトバンが並んだか #74





初制覇はお預け #10

■最終結果

混戦の第3戦を制したのは#410「ACRS Today」、第2戦で12秒差で涙をのんだ借りを返して今季初優勝！シリーズランクも3位にアップという結果。

2位は#28「LIMITLINE トウディ」こちらは前戦とは逆に1Lap 及ばずの2位、しかしながらちょうど50Pでシリーズランキングは首位を堅持。

表彰台の最後は#100「HAC もらいものビート」、前戦で逃したポディウムに復帰&シリーズは2位とまずまずの流れをキープしている。

以下4位は#6「ロッキーレーシング DXL アルト」、5位#33「Timely アルト IDI」、6位#95「KHK アルト」、7位#74「アルジェンタートアルト GT」と新規格勢が続いた。

8位は予選上位だったが途中の接触が痛かった#10「FASTOUT アルト」、9位#28「ブラストヴィヴィオ」までが完走。

■総評

前戦にも負けない接戦となった第3戦の戦い。#410「ACRS Today」が予選3番手からの今季初勝利を掴んだ。今回新規格車初勝利を狙った#10「FASTOUT アルト」だったが接触で順位を落とした。ウェイトを積みながらも2位に入った#28「LIMITLINE トウディ」も見事な走りだった。

シリーズランキングは旧規格勢が上位を占めているが、この流れが変わるのか…次戦はいよいよ4時間戦だ。



ここまでが完走 #28



エキゾーストが子守唄



完走ならず残念 #5



スタート前の打ち合わせがきいたか



元気よくスタートしたのだが… #88





見事な連勝でシリーズトップに！ #25

KNCクラス（軽NAのクローズドクラス）

第2戦で#25「アカミミネコマル 2 トウディ」が今季初勝利、シリーズポイントは#66「VISCONTI トウディ」とともに 35P で並んで迎える第3戦、そのほかの注目としては L235S エッセの#51「キヤドカーズ エッセ by 川晋工芸」、L275V の#52「パンドラ C.M.I ヨネミラ」、L700V、#56「キヤドカーズ ☆ミラジジーノ！」のダイハツマシン。それらを含めた7台のエントリー。

■予選

今回も予選トップは#25「アカミミネコマル 2 トウディ」1' 08.059。ウエイトハンデを感じさせない予選タイム。2番手は#51「キヤドカーズ エッセ by 川晋工芸」1' 09.774、新規格最上位で10秒切りは見事。3番手は#66「VISCONTI トウディ」1' 10.045、第2戦は惜しくも2位。4番手は#52「パンドラ C.M.I ヨネミラ」1' 10.768、5番手#950「today prototype」1' 10.774 と初参加2台が並ぶ。6番手#225「ぐっちっちプリントアーツトウディ」1' 11.537、7番手は初参加の#56「キヤドカーズ ☆ミラジジーノ！」1' 13.283 という予選結果。

■序盤

序盤から飛ばす#25「アカミミネコマル 2 トウディ」が、まずピットイン。#66「VISCONTI トウディ」と#51「キヤドカーズ エッセ by 川晋工芸」はもう少し引っ張る作戦か。#52「パンドラ C.M.I ヨネミラ」は3番手、#56「キヤドカーズ ☆ミラジジーノ！」が4番手。

レーススタートからピットインを繰り返す#225「ぐっちっちプリントアーツトウディ」と時折スロー走行となってしまう#950「today prototype」はLap が今一つ伸びてこない。

■中盤

中盤は#25「アカミミネコマル 2 トウディ」、#66「VISCONTI トウディ」が首位争い。それを追うのが#51「キヤドカーズ エッセ by 川晋工芸」、#52「パンドラ C.M.I ヨネミラ」の新規格勢。#56「キヤドカーズ ☆ミラジジーノ！」も5番手につける。序盤出遅れた#225「ぐっちっちプリントアーツトウディ」と#950「today prototype」もなんとか自身のペースを刻んでいる。

■終盤

ゴール1時間前時点でトップは#25「アカミミネコマル 2 トウディ」95Lap、#51「キヤドカーズ エッセ by 川晋工芸」94Lap、#52「パンドラ C.M.I ヨネミラ」93Lap、#66「VISCONTI トウディ」93Lap と上位は混戦。優勝&表彰台争いが激しさを増す。5番手#56「キヤドカーズ ☆ミラジジーノ！」87Lap、#225「ぐっちっちプリントアーツトウディ」79Lap、#950「today prototype」74Lap と下位2台も完走ペースにもってきた。



あとは頂点だけ #51



こちらも注目！ #52



シリーズ2位は堅持 #66

Race Report

GT-CAR PRODUCE

■最終結果

最後までトップを守り切ったのゴールは#25「アカミネコマル2トゥディ」、第2戦に続き連勝！！2位には#51「キヤドカーズ エッセ by 川晋工芸」が入り自己最高位！3位には初参加の#52「パンドラC.M.Iヨネミラ」が入り、2-3位を新規格ダイハツ車が占める結果に。

逆転を狙った#66「VISCONTIトゥディ」は4位、5位には#56「キヤドカーズ☆ミラジジーノ！」、6位#225「ぐっちっちプリントアーツトゥディ」、#950「today prototype」が7位と無事に全車完走。

■総評

#25「アカミネコマル2トゥディ」の強さが光ったレースだが、結果的に2-3位を占めた新規格ダイハツ車にも注目、L235S エッセとL275V ミラバンはK耐久東海シリーズでは少数派だが、他地区NAレースなどではなかなかの人気車で、その流れは中部にもやってくる気配があるか。

次回は初秋の4時間戦、秋とはいっても毎年アツい戦いとなるこの天王山を制するのはどのチーム・マシンか！



ジーノは5位 #56



序盤の出会い遅れを挽回 #225



ネコが見据える先は勝利！



こちらも完走 #950





今季 2 勝目！ シリーズも首位！ #698



1Lap 及ばず #38

KNOクラス（軽NAのオープンクラス）

開幕戦で#698「RN698 和泉管 Mira」が新規格車として初勝利、続く第 2 戦では#38「デモリッションエグゼトウディ」が復活勝利、JKレーシング軍団もしっかりと上位をキープし混戦模様のこのクラス。上位を争う 5 チームがすべてそろった第 3 戦、折り返しを迎えさらに戦いはヒートアップか。

■予選

予選トップは今回も#36「JKレーシングユーロトウディ」1'06.168、2 番手には#38「デモリッションエグゼトウディ」1'07.222 と第 2 戦と同じ。3 番手には#34「JKガチャピントウディ」1'08.034 がつけ、#698「RN698 和泉管 Mira」は 4 番手、1'08.200、#37「JKレーシング EUROU ビート」1'08.438 で 5 番手という予選。タイム的にはどのマシンもそれほどの差はなく、早くも接戦の予感。ちなみにウエイトハンディは#38「デモリッションエグゼトウディ」に 20kg。

■序盤

レースはスタートから早くもヒートアップ。最初のスティントは、#38「デモリッションエグゼトウディ」を先頭に総合トップ以外は 2 位から 5 位までを KNO が占める事態。#34「JKガチャピントウディ」、#37「JKレーシング EUROU ビート」、#698「RN698 和泉管 Mira」の順、#36「JKレーシングユーロトウディ」だけが早めのピットインか。

■中盤

中盤で熾烈な争いをしたのは、#38「デモリッションエグゼトウディ」と#698「RN698 和泉管 Mira」。ときおり順位を入れ替えながら先頭争い。それに#37「JKレーシング EUROU ビート」が絡み、ボードの一番上に名前を刻みながらレースを支配。4 番手#36「JKレーシングユーロトウディ」、5 番手#34「JKガチャピントウディ」とJKレーシング軍団もしっかりとついてきており、まだまだ波乱の予感。



JK 軍団のトップはこのビート #37



総合トップを争う KNO マシンたち !!



Race Report

■終盤

終盤でトップを奪ったのは#698「RN698 和泉管 Mira」、総合トップをうかがう走りを見せる。2位の#38「デモリッションエグゼトウディ」も1Lap差で追いかける。さらに#37「JKレーシング EUROU ビート」、#36「JKレーシングユーロトウディ」もくらいついておりこまですべて総合の上位。#34「JKガチャピントウディ」も少し遅れたとはいえまだまだ健在。

■最終結果

アツいアツい第3戦を制したのは、#698「RN698 和泉管 Mira」、総合優勝との差は35秒ほどの2位チェッカー！堂々の今季2勝目をマーク。1Lap届かなかったのは#38「デモリッションエグゼトウディ」、連勝とはいかなかったがさすがのレース運び。3位はJK軍団の一員#37「JKレーシング EUROU ビート」、これまたトップから1Lap差のまさに激戦！

4位には#34「JKガチャピントウディ」、#36「JKレーシングユーロトウディ」は終盤にトラブルとなり、完走扱いの5位。

■総評

一時は総合トップを走り、最後までターボ車を追いかけてまわした#698「RN698 和泉管 Mira」の速さは本物！以前にも指摘したが、オープンクラスならではのマシンとはいえストレートでターボ車にそんな色ない速さを披露。改造クラスの醍醐味だ。シリーズランキングも首位をがっちりキープ。

とはいえ2位以下は大混戦、4位までが15P差で4時間戦を迎える次戦はいよいよ目が離せない！



あまりガチャピンっぽくは見えませんが… #34



終盤までは快調だったが #36



こいつの速さは本物



ってことで今回はV8のアップ〜
ペイントだそうです、スゲー！



2連勝でランキングトップに！ #330



2位に入りランキングも2位 #93



表彰台をGet #112



序盤の不調から復活し完走へ #69

KTCクラス（軽過給機のクローズドクラス）

第2戦で初優勝をマークした新規格車#330「DIXCEL コンパノミラ」がランキングトップ。それを#112「白須賀会カプチーノ」と#93「藤枝マリンダイビングアルト」が追いかける前半戦。

その上位陣に加えランキング4位の#69「モモヤマレーシングアルト」を加えた4台がしのぎを削る第3戦。

■予選

予選トップは#112「白須賀会カプチーノ」1'08.242、2番手は#93「藤枝マリンダイビングアルト」1'08.265、3番手は前戦優勝の#330「DIXCELコンパノミラ」が1'08.788。#69「モモヤマレーシングアルト」1'18.745は、トラブルを抱えているのか予選は振るわず最後列からのスタート。

■序盤

序盤は予選順のバトル、#112「白須賀会カプチーノ」、#93「藤枝マリンダイビングアルト」、#330「DIXCELコンパノミラ」静かではあるがアツい戦いの序盤戦。その一方で残念ながら#69「モモヤマレーシングアルト」は、ピット員を繰り返し、ときおりスロー走行でトラブルが続いている。

■中盤

中盤は#330「DIXCELコンパノミラ」が首位に。2番手は#112「白須賀会カプチーノ」がつけ、#93「藤枝マリンダイビングアルト」も遅れまいと踏ん張る。#69「モモヤマレーシングアルト」は序盤のトラブルから復活し、ペースを取り戻してきた。

■終盤

終盤に入って抜け出してきたのは#330「DIXCELコンパノミラ」、2位の#112「白須賀会カプチーノ」に2Lapの差をつけ首位固めか。さらに5Lapの差で#93「藤枝マリンダイビングアルト」でポディウムはこの3台が有力のようだ。#69「モモヤマレーシングアルト」はなんとか完走まで持っていきたい。



懸命の作業で復活

Race Report



■最終結果

最後までペースを保った#330「DIXCEL コンパノミラ」が第2戦に続き連勝、完全にこのクラスの主導権を握ったか。2位には#93「藤枝マリンダイビングアルト」が一つポジションを上げた。3位は#112「白須賀会カプチーノ」。
序盤苦しんだ#69「モモヤマレーシングアルト」だが、規定周回数をクリア、しっかりと完走を果たした。

■総評

新規格ミラL700Sを走らせる#330「DIXCEL コンパノミラ」はウェイトハンデをものともせず連勝、シリーズランキングでも55Pとなりこのクラスの主役に躍り出た。台数的には決して多くはない車種ではあるが、チームとしてうまく走らしているしノウハウもあるようだ。

追いかける立場となった旧規格勢は#93「藤枝マリンダイビングアルト」が35P、#112「白須賀会カプチーノ」が34Pとこちらはわずかな差、うまく抜け出してトップとの差を詰めたいところ。

一発の速さはワークスに分がある、次戦の4時間戦ではそれを結果につなげたい。



ワークス VS カプのバトル





梅雨明けだ！！ 初PPだ！



お見事！ #9



初表彰台！ #108



惜しかったが速かった！ #717

KTOクラス（軽過給機のオープンクラス）

ミニカ、アルトバンターボが戦いの主導権を握り、新規格勢が主役となりつつあるこのクラス。今回は#32「爆走あばれ馬ミニカ」が欠席で少々さびしいが、その分旧規格からの刺客ともいえる#108「午後の番茶@ナローカプチーノ」がどこまで頑張るかが見どころ。

■予選

予選トップは#717「Team Jatsun アルト」1'05.891で初の全体PP！速さは増してきたと見られていたがいよいよ本領発揮でお見事。

2番手は#9「テクニカ Motys 制動屋アルト」1'07.100少しタイムは伸びないようだが決勝を見据えてか。3番手は#108「午後の番茶@ナローカプチーノ」1'08.393キャビンの狭い2シーターは暑さが気になるが、このマシンにはシュノーケル状のインダクションポッドが装備されている。

■序盤

スタートから首位をキープするのは#717「Team Jatsun アルト」、ライバルを従えてレースをコントロール。2番手はS耐などにも出場しており耐久を知り尽くした#9「テクニカ Motys 制動屋アルト」、今回も豪華な布陣とノウハウで横綱相撲を見せるか。3番手は#108「午後の番茶@ナローカプチーノ」、少しリズムの悪かった第2戦とは違いしっかりと自分のペースを掴んでいる。

■中盤

スタートからトップを快走していた#717「Team Jatsun アルト」だが、コースアウトでクラッシュパッドに接触。ピットまで戻れたためマシンの修復にかかる。これでトップに上がったのは#9「テクニカ Motys 制動屋アルト」首位固めにかかるが、#108「午後の番茶@ナローカプチーノ」もくらくつく。

■終盤

終盤は#9「テクニカ Motys 制動屋アルト」がトップを守りながら、一時他のクラスに奪われた総合首位を取り返す戦いを展開。#108「午後の番茶@ナローカプチーノ」もペースキープでゴールへ向かう。#717「Team Jatsun アルト」はラジエータとバンパーの補修を完了しレースに復帰、あきらめない走りで周回を重ねていく。

Race Report



■最終結果

最後まで首位をキープした#9「テクニカ Motys 制動屋アルト」が総合優勝！開幕戦に続く今季 2 勝目をマーク。2 位には#108「午後の番茶@ナローカプチーノ」が初表彰台。#717「Team Jatsun アルト」も規定周回数どころか 2 位に4Lap 差まで追い上げる走りですっかりと走り切った。

■総評

今回は優勝を狙った#717「Team Jatsun アルト」が、コースアウトでその夢は次戦以降にお預けとなったがレース中のファステストラップを記録するなどその速さを存分にアピールした。

#9「テクニカ Motys 制動屋アルト」はさすがの戦いぶりで、他のチームも参考にできる部分があるのではと思う。少数派となった#108「午後の番茶@ナローカプチーノ」だが、暑い中トラブルもなく走り切ったのは大いに評価できる。

次戦はいよいよ 4 時間戦、#32「爆走あばれ馬ミニカ」も帰ってきてのバトルを期待したい。



やったね♪



懸命の修復から復活！！